

(西暦) 2020年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること)

高齢虚血性心疾患患者のヘルスリテラシーの検討

学位の種類: 修士 (看護学)

東京都立大学大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 19894701

氏名: 石井 晶子

(指導教員名: 織井 優貴子 教授)

注: 1ページあたり 1,000 字程度 (英語の場合 300 ワード程度) で、本様式 1~2 ページ (A4 版) 程度とする。

目的: 近年、保健医療分野で注目されているヘルスリテラシーは、「健康情報を入手し、理解し、評価し、活用するための知識、意欲、能力であり、それによって、日常生活におけるヘルスケア、疾病予防、ヘルスプロモーションについて判断したり意思決定をしたりして、生涯を通じて生活の質を維持・向上させることができるもの」と定義されている。先行研究から、人はヘルスリテラシーが不十分であると様々な健康問題を抱えることがわかっている。我が国で増えている高齢の虚血性心疾患患者の二次予防には、生活習慣の管理が重要であるが難しい現状がある。本研究は、高齢虚血性心疾患患者のヘルスリテラシーの特性を明らかにし、医療機関で効果的な患者教育を中心とした看護介入を行うための示唆を得ることを目的とする。

方法: 東京都内の循環器内科を標榜する医療機関に、心筋梗塞後または狭心症の治療のために外来通院している 20 歳以上の男女で、過去に 1 回以上の冠動脈インターベンションを受けたことがある者 92 名を対象とし、無記名の自記式質問紙調査をおこなった。調査内容は、基本属性と包括的ヘルスリテラシー尺度である Japanese Version of the European Health Literacy Survey Questionnaire (J-HLS-EU-Q47) とした。研究対象を 65 歳未満、65 歳以上の 2 群とし、J-HLS-EU-Q47 の総得点と、3 領域(ヘルスケア、疾病予防、ヘルスプロモーション)の得点、さらに 3 領域の下位尺度である 4 つの能力(情報入手、情報理解、情報評価、情報活用)の得点について、2 群間で差があるかどうかを検討した。

結果: 研究協力が得られた医療機関で質問紙を 109 部配布し、109 部全てを回収した。回答に記入漏れのあった 17 名を除外し、92 名を分析の対象とした。全対象者の平均年齢は 69.17 ± 10.20 歳であった。65 歳未満は 29 人で平均年齢は 57.34 ± 5.66 歳、65 歳以上は 63 人で平均年齢は 75.62 ± 6.53 歳であった。65 歳未満と 65 歳以上のそれぞれの正規性を外観したところ、両群とも正規性を成していなかったことから、ノンパラメトリック検定を用いた。J-HLS-EU-Q47 の総得点、3 領域(ヘルスケア領域、疾病予防領域、ヘルスプロモーション領域)得点について Mann-Whitney の U 検定の結果、2 群間の J-HLS-EU-Q47 の総得点、3 領域得点に有意な差はみられなかった。3 領域それぞれの 4 下位尺度(情報入手能力、情報理解能力、情報評価能力、情報活用能力)において、65 歳未満と 65 歳以上の得点を比較したところ、疾病予防領域とヘルスプロモーション領域の情報活用能力において 65 歳以上の中央値が有意に高かった。

結論：J-HLS-EU-Q47を用いて、虚血性心疾患患者のヘルスリテラシーを測定した結果、今回の対象者では、疾病予防領域の情報活用能力とヘルスプロモーション領域の情報活用能力において、65歳以上の得点が有意に高かった。

考察：今回の対象者のヘルスリテラシーは一般人に比較して高く、医療機関への受診の際に医療情報に触れる機会が多いことが理由として考えられた。さらに65歳以上の高齢者は時間の余裕や、加齢による健康意識の高まりがJ-HLS-EU-Q47の総得点に影響したと考えられた。J-HLS-EU-Q47を用いた虚血性心疾患患者のヘルスリテラシーについての研究は少ないことから、今後研究対象者を広げ具体的な看護介入を探索することの必要性が示唆された。